

Ⅱ 調査結果の特徴

1. 児童の運動習慣と体力～1週間の総運動時間から

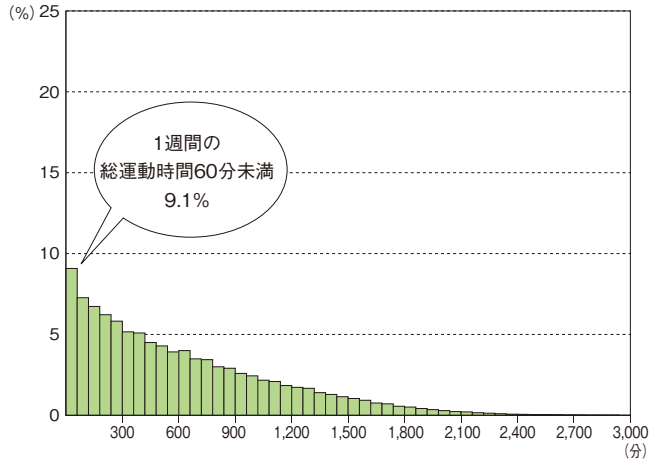
1 | 1週間の総運動時間の分布

①1週間の総運動時間の分布は、平成20、21、22、24年度調査と同様、運動をほとんどしない児童が多く、特に女子においては顕著であった。

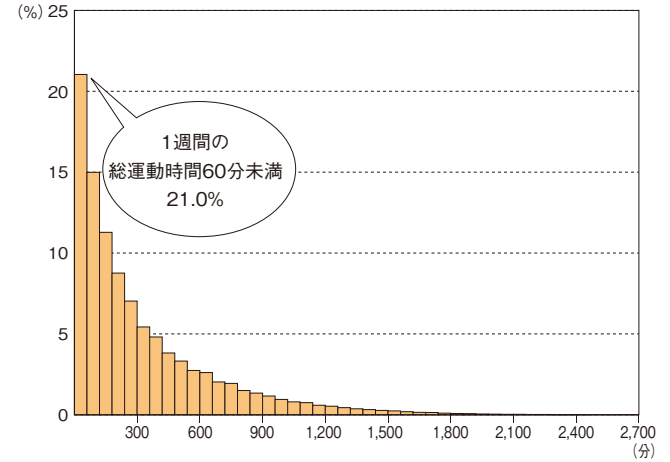
②1週間の総運動時間が60分未満の児童のうち、男子の54.6%、女子の47.6%の運動時間が0分であった。

〈1〉 1週間の総運動時間の分布

● 男子

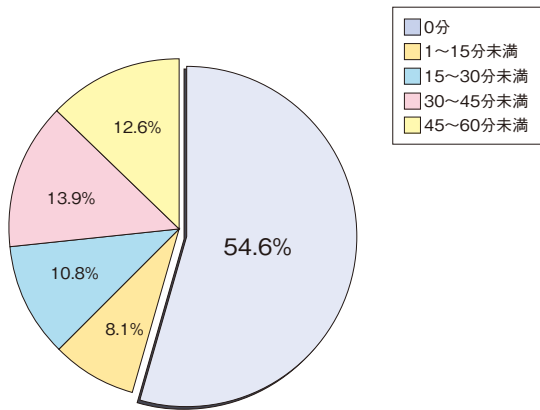


● 女子

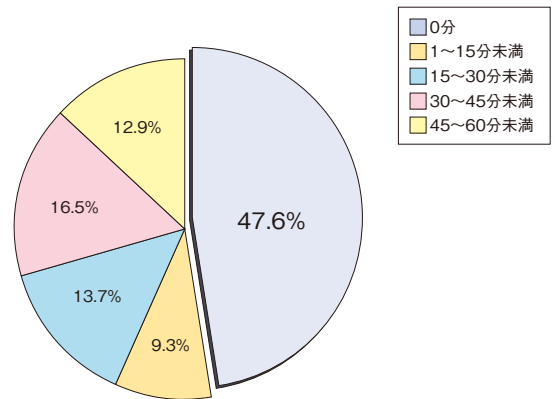


〈2〉 1週間の総運動時間が60分未満の児童の運動時間の内訳

● 男子



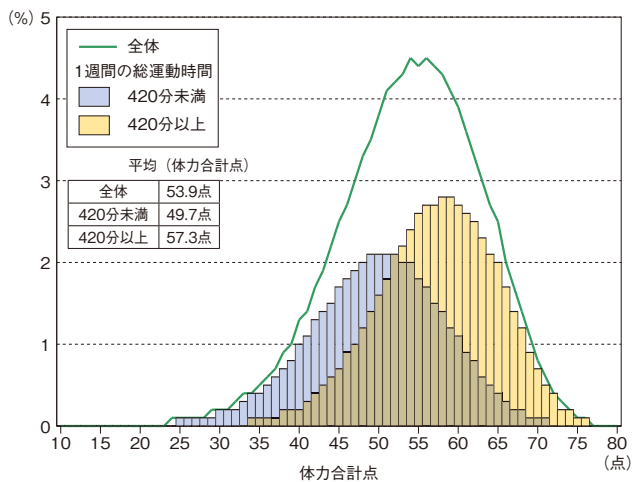
● 女子



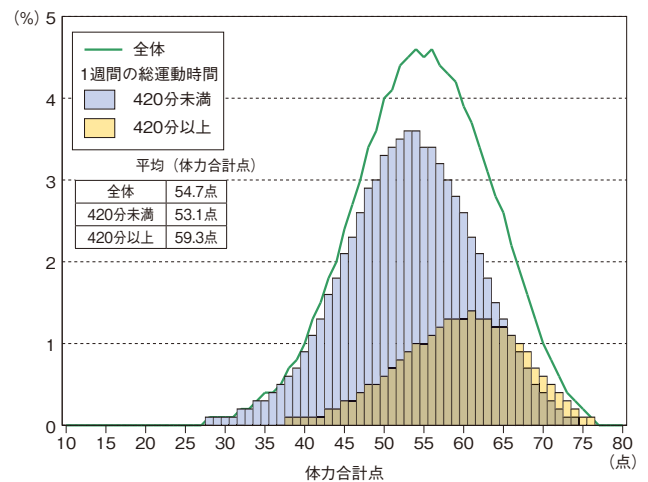
2 | 1週間の総運動時間と体力合計点との関連

①男女とも、1週間の総運動時間が多い児童の方が、体力合計点が高かった。

● 男子



● 女子



3 | 1週間の総運動時間からみた昭和60年度水準の到達率

- ①昭和60年度と比較可能な種目すべてにおいて、男女とも、1週間の総運動時間が420分以上の児童は、420分未満の児童に比べて、昭和60年度水準到達率（各種目の昭和60年度平均値に到達した児童の割合）が高かった。
- ②昭和60年度水準到達率が最も高かったのは反復横とびで、1週間の総運動時間が420分以上の児童は、男子が76.6%、女子が76.3%であった。
- ③最も低かったのはソフトボール投げで、1週間の総運動時間が420分未満の児童は、男子が8.0%、女子が15.1%であった。

※スポーツ基本計画（平成24年3月文部科学省）では、体力水準が高かった昭和60年度水準を上回ることを目標としている。
 ※グラフ中の縦の赤い点線は昭和60年度平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率。

